

会 議 録

会議の名称及び会議の回	飯田市社会教育委員会議 令和元年度 第2回定例会
開催日時	令和2年3月13日（金）午前9時30分～
開催場所	飯田文化会館 展示室2・3
出席委員氏名	今村幸子、今村光利、植松敏明、太田兼彦、鈴木雅子、竹内稔、永井祐子、中島正韶、名子晃、服部珠予、平田睦美、三浦宏子
出席事務局職員	代田教育長、今村教育次長、青木地域人育成担当参事、北澤生涯学習・スポーツ課長、馬場文化財担当課長、小椋歴史研究所副所長、秦野公民館副館長、棚田文化会館長、瀧本中央図書館長、池戸美術博物館副館長、小嶋地育力向上係長、原主事、熊谷社会教育指導員
会議の概要	以下のとおり

※公表の会議録は正副座長以外は（委員氏名）を掲載しません。

1 開会

2 委嘱状交付

鈴木 雅子 委員へ代田教育長から委嘱状を交付。

3 あいさつ

（代田教育長）

改めまして皆さんおはようございます。本日は社会教育委員会議、大変お忙しいところ、年度末のあわただしい中、お時間をいただき、ご出席いただいたことに、感謝申し上げたいと思います。

また日頃より飯田市の教育行政、さらにはこの間の新型コロナウイルスに関しては、各団体、社会教育を含めてですけれども、いろいろな形で対応に迫られているかと思えます。そんな中でしっかりとした対応をいただいていることに、改めて感謝申し上げたいと思います。本当にいつもありがとうございます。

先ほど、鈴木 雅子 様に委嘱をさせていただきました。鈴木様におかれましては、「おしゃべりサラダ」の方で様々な活動をされております。豊富な知見を社会教育委員会議で活かしていただきながら、ぜひ盛り上げていただきたいなと思っております。よろしく願いいたします。

さて、私の方からは皆様に情報共有ということで、学校教育の方での新型コロナウイルスへの対策がどうなっているのかということ、少しご報告させていただきたいと思えます。

皆さんご存知のとおり、先月の2月27日に、安倍首相の方から、学校の休校ということで通達があったわけですが、その中で飯田市教育委員会としては、3月2日から、一旦休校措置をとるものの、臨時的な登校を各学校の判断で行うということで、3月2日の月曜日に至っては、全28校が登校ということで、登校で給食をとりました。その後は2日登校日にするところ、3日登校日にするところ、様々ありましたけれども、いきなり休業に入って混乱をきたさないようにという配慮のもと、スムーズに休業に入れたかなあというふうに思えます。その一方で突然言われても仕事の関係で一人で子どもを置いておけないという家庭があるというふうに考え、学校での受け入れ、他の自治体では朝から児童館で受け入れるというところもありますが、飯田市の場合は、そういった子どもがいれば、学校で受け入れるということ、学校側の了解を得ながら、どうしても対応できないご家庭においては、学校でお預かりをするという対応をとっています。その数は日々変わっているんですが、500名前後が今、学校に来ているというふうに思いますが、いずれにしろ学校の協力、そしてまた下校時刻以降の児童クラブ等での受け入れもスムーズに行っているおかげで大きな混乱がなく、進んでいるかなあというふうに思えます。その点に関しましては、関係者のみならず、地域の皆様、その他受入れていただいているさまざまな関係者の皆様に感謝したいと思います。

もう一つ、皆さんにご連絡として、卒業式をどうするのかということについては、保留できたのです

が、昨日、定例の教育委員会を開催いたしました。今までのところは先生と対象となる卒業生だけというような通知を出してはいたけれども、昨今、飯田下伊那で、まだ罹患者がいないということ、そしてまた新型コロナウイルスの対策方法、いわゆる密集になって密閉空間で、また近距離で話をしないということを行えば集団感染は防げるというようなこともわかってきましたので、そういうことを徹底しながら、罹患者が出ない管理を各学校でとりながら、保護者1名に参加していただくということで、少し勘案して卒業式を行う準備を進めています。多くの学校が17日、18日という二日間になりますが、その前に罹患者が出た場合には新たな対応をしなければなりません、そのような形でできればと思っています。子どもたちにとっては本当に学校生活で一番大事な日、将来に残る大切な日だと思っていますので、規模は縮小したりしても、しっかりと送られるといいなと切に願っております。また皆様にもお力添えをいただくことがあるかもしれませんが、その際はよろしくお願いたします。

さて、本題へ戻ります。今回は第2回の定例会ということで、皆さんにお集まりいただき、来年度に向けてということでご議論をいただきたいと思っております。私からは2点、今回、今までと違っているところをお話をさせていただきます。

まず1点目は、資料No.1-2「事務事業進行管理表」というものをお配りさせていただきました。お手元見ていただきたいと思っております。この資料をご提示するのは、社会教育委員会会議では初めてのことかと思っております。これは議会で議員の皆さんと教育委員会や市の事務局と意見交換をするための資料としてあるものです。それを皆さんにも見ていただきながら、議会と同じレベルという表現が適切かどうか分かりませんが皆様がしっかりとご議論できるような資料としてご用意させていただきました。ですので、まずこれを基に報告をさせていただきますので、活発なご議論をいただきたいと思っております。

もう1点は、来年度は飯田市の第2次教育振興基本計画の前期4年の最終年度になります。今第2次教育振興基本計画というのは、12年の計画を立てています。4年ずつの前期、中期、後期の3つに分かれているわけですが、その前期4年が来年度で終わります。この4年目というのは非常に大事だと思っています。つまり中期に向けて修正すべきところは修正する、また課題があったらもっと良くするために、ご議論いただかなければならないと思っています。ですので、この3年目の最終回と来年度の会議の位置づけも含めて、次期、再来年度中期に向けて、来年度は前期4年の反省と、さらに伸びしろをもって翌年度からの中期に向けてしっかりとステップアップできるような大事な年になってくると思っていますので、この3年目最後の会議も来年度に向けた、また、総括に近い部分が出てきてもかまわないと思っております、中期に向けた会議になるということを入れていただきながら、ご議論いただけるとうれしかなというふうに思います。

そんなことでぜひみなさんのご経験やご知見をいただきながら、飯田市の教育行政、さらには未来をひらく子どもたちへの様々な教育が実りあるものとなりますよう祈念し、あいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

(鈴木 雅子 委員、青木 純 地域人育成担当参事の自己紹介)

4 報告・協議事項

(1) 社会教育関係各課・館・所の令和2年度の事業等について

(北澤生涯学習・スポーツ課長)

報告・協議事項に入らせていただきます。進行を中島座長様をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いたします。

(座長)

おはようございます。よろしくお願いたします。

ご案内のように今年度、去る6月28日に飯伊地区の1市3町10か村の社会教育委員連絡協議会の定期総会と研修会が上郷公民館で行われました。飯田市が当番ということでございまして、午前中2本の事例発表と、その事例発表を受ける形での午後のフィールドワークという形で、非常に充実した総会と研修会をもつことができましたわけでございます。企画から運営まで、時間配分なども含めていろいろな分野において、飯田市として素晴らしい形で終えることができたことを感謝申し上げます。

県の総会、研究大会、中北部ブロックの豊丘村での研修会、そのほかのキャリア教育推進フォーラムや学輪 IIDA や公民館大会等々のご案内をいただき、研修をさせていただくことができました。ありがとうございました。

あと一つでございますけれども、本年度新しく、飯田市社会教育委員情報というものを7月から発信するようにいたしまして、14号ですか、までeメールで一斉に委員さんへ発信するようにしまして、情報を共有させていただきました。小さな村では毎月社会教育委員の会議があるわけですが、飯田市は大きいわけですし、なかなか大変でございますので、私たち自身がそういう形の情報共有をしながら、その場その場でいろいろな発言や提言ができるというシステムを作りました。次年度も続けていきたいなと思っているところです。

本日はかなりの分量でございますので、密度の濃い会議になりますようによろしくご協力をお願いいたします。

それでは報告・協議事項の(1)、事務局よりお願いします。

(事務局より説明)

(座長)

ありがとうございます。膨大な資料に基づきまして、ご説明いただきましたが、令和2年度の事業、また3年度以降の計画も視野に入れながら、分野を定めずに委員の皆様にはどこからでもご意見、質問、要望等出していただくという形で進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

全体的に横の交流っていうのが、例えば美博の方へ学校からバスを出してせっかくいい施設がある中で、行くことができるということもすばらしいし、全体を通して飯田市のシステム、施設と学校を交流させるっていう全体の流れはとてもいいことだと思いますし、あと、幼児から高校生までの一連とした教育、これは取組としていいなと。今まではどうしてもブツツ、ブツツと切れていた。その流れを、人間て、小さな時から交流がすごく大事なことなので、流れを止めないような一連の授業というのはすごく大事なことだなあと思います。

その中で最初にすごく私が思ったところは、全体の飯田市の子どもたちの英語のところですね、小学校の時はとても好きだけど、中学へ行くとわからなくなる、というところ。M中へ私、わからない子を見てほしいという話があって行ったときに、これはM中に限らずどこの中学校でも同じことだとは思いますが、子どもたちかわいそうだなって思いました。それは英語のわからない子が、一週間のうち何時間机に黙って座っているのか。この子たちはすごい素直でいい子たちなのに、わからない子たちが授業座っているのってつらいだろうなと思いました。

この子たちは、楽しいということがわからないんだと思う。というのは、3年で補習するよりも、中学になったときに、英語に限らないと思います、授業の中でつらい、わからない子たちを救うのは、1年、それは小学校の時だとは思いますが、なるべくそういう子たちを地域で支えてあげて、こんな言い方はあれですけど、スポーツがなくなった部分、そういうところを手厚く、そのような取組も、もしかしたらできるのかなあっていうことを思いました。

英語なんかは特に、日常的に使わないとね、例えば人形劇の中で英語を感化されるような人と接触するとか、私が大学にいたときにインド人の方がいまして、その方と交流したときに、やっぱり英語は大事だなと。そういう、子どもたちに実感を持たせることが、一番じゃあ勉強しようということになると思うので、何かそういうことが、小さな時に、授業の中でのELTとかによる体験というよりも、何か身近なものの体験がもっと必要なんだと。英語の文を訳せる日本語を子どもたちが理解できない。国語力をつけられるようなところもあるといいなと。飯田市として幼稚園、保育園から支えてあげられることができればいいなという気がします。

それともう一つは、高校生と公民館との事業が行われているんですけど、ぜひ中学生との事業も取り入れていただき、また高校について先生方が固定になってしまっていて、その先生方もすごく大変だと思うので、広く先生に協力してもらって、中学生や高校生が地域に入って来られればいいと思っています。

(座長)

学校を核にした地域づくり、まさしく今の課題に答えるご提言だったと思いますが、具体としてどうやっていくのか、委員さんも機会があったらこういう会議ではなくて、直接事務局の方へご提案をして

いただければと思います。

(委員)

今まで一年間、中学生や高校生が出る講演会や催し物にできるだけ積極的に参加するように努めてきましたが、建築科の学生さんが、グレタさんのことを知らなかった。それから、中学生の将来の夢っていうものが、まあ、中学生の男の子らしい、ちょっとはすに構えたことだったんでしょうけども、んー？と思うようなことに対して、ちょっとがっかりしました。

自分の周りしか見ていない、飯田の中での、その状況の中で、自分の身近なところしか見てないのかなあというところがっかりしたんですけれども、2月に中央図書館の催しで、信大の先生の講演会がありまして、私都合が悪くて出られなかったんですが、これからの職業、仕事がどのようになるかという大変面白い講演会だったらいいですね。

もっと今の世の中っていうものを中学生、高校生が知る機会、もちろん地域のことも大事ですけども、これからの全世界のこと、コロナも含めて、これからの基礎的な、常識的なものを、またAIなど言葉はわかっているけれども実際どういうものなのかということをもっと中学生、高校生に知ってほしいなあというふうに思いました。

図書館という機能が、いろいろやっているということだったんですが、本を貸すということに重きを置いていますけども、世の中を見渡すと、図書館を拠点に支援とか、いろいろな情報を発信するとかいろいろなことが図書館の中で期待されていて、飯田市の場合は、公民館もそういう機能、例えば「終活のしかた」とか「遺言の書き方」とか、いろいろな多岐にわたる関心事というのは、公民館の事業でも拾っていると思うんですけども、そういった経済的ないろいろな支援といったもの、図書館でも本のスペースが増えていますが、もっと増えていくといいと感じているところです。

(委員)

未来デザイン 2028 を見ますと、人口の将来展望というのが 定住人口は減っていき、交流人口が増えていくのではないかとこの予測が基になっていますけど、今回のコロナでわかったように、集団で集まるということに対してのリスクがあるということが社会的に大きくアピールされてきているのではないかと。人が来て、集まるということだけが、この地域を活性化することになるのかどうか。離れたところから、テレビ電話的な形で情報を発信することの価値というものをどう評価していくのか。南海トラフ地震によって太平洋側がもしやられたとすれば、日本全体が沈没というような状況も考えられるわけですが、このあたりは津波はまず確実に来ないとは思いますが、頭脳、ブレインがここに拠点を置いて、全体を動かしていくんだというようなそういう地域に 2028 年までにしていける、そういう体制をつくれれば、若者はここに軸足を置いて、必要ならば都会へ何十分かで行ける体制ができるんじゃないか、そういう大きな視点を持って社会教育の方も見ていく、この 12 年間のビジョンではないかなということの一つと思います。

そういう中で、未来ビジョンの中の一番下に、「地域の誇りと愛着で 20 地区の個性が輝くまち」というのがありますが、ここに育った者が、日本人として、誇りをもって世界に雄飛していくきっかけになるというふうな大きなビジョンを持って社会教育を図っていけるといいかなと思います。そういう点では、私の場合は考古学と、それから人形劇、伝統文化の方に関わっておりますので、伝統芸能に関わるのが、ひとつのきっかけとなるのではというふうに思います。

そういう点では戦略計画の 35 ページ、南あわじ市と飯田市の中学生が互いに交流を、という事業がありますが、他地区との交流を進めていただく中で、自分たちのまちがこんなに素晴らしいところなんだということがわかるような事業、これはぜひ進めていただきたいというふうに思います。

恒川地区が国の指定地区になりましたけれども、まだまだこれから調査中というところもありますけれども、それを基にしてリニアを降りたところの近くにこういう国指定を活かしたのものがあるんだということを アピールできるように、数年の間に計画していただいて、増やすだけではなくて、時には減らすことも考えていかなくてはならないこともあります。そのようなところをどう勘案するかを生涯学習・スポーツ課と市民とで考えていただけるといいと思います。

(委員)

公民館では私、市公の方で市民大学、それから仕事ではシニア大学をやっております。毎年何かしらテーマを決めるということで、数年前から言っておるのですが、1921 年、今から 100 年前、社会教育と

という言葉が初めて登場した。1921年の6月、法律の中で改正された、ちょうどそれから100年たつという事です。それまでは法律上、通俗教育といわれた、国民教化の手段として考えられていたものが、自主的な学び、自発的な国民を育成していくということで、社会教育と名前が変わって100年たったわけなんです。ちょうど1921年の2～3年ほど前ですか、スペイン風邪が大流行して、日本国内では4万人の死者を出した。世界的なパンデミックが起きた。第1次世界大戦の真っ最中です。徴兵もままならなくなって、休戦協定が結ばれるという、そういう中で社会教育という言葉が生まれた。残念ながら市民活動みたいなことがようやく生まれてくる、後藤新平だとか正力松太郎とか、警察官僚ですけども、出てきた時代なんです。残念ながら関東大震災、世界恐慌なんていうエポック・メイキングな状況の中で社会教育が生まれてきたという背景をみると、今まさにもう一度見直しをしながらやっていく時期かな。社会教育100年というのがわれわれのここ数年のテーマで、「学ぶ」ということがよく言われているんですが、その中で郷土の偉人の太宰春台が「学んで問う」という「学問」という言葉を、日本史上初めて文献の中で出しました。「文に学ぶ」という言葉はありましたが、「学び問う」という言葉、それを明治維新になって福沢諭吉という人が”science”の翻訳言語として「学問」を充てておるんですが、一方、西周が”science”という言葉で「科学」、広い学びということで「科学」という言葉を西周は使って、福沢諭吉は「学問」というふうに”science”を訳しているんですが、そんなことを考えて、今現状を見ると、マスクがなくなる、それは当然のことなんです。ティッシュがなくなるということを見ると、使い方は悪いんですが、民度ということを考えるときに、社会教育というのはどういう声を聴いてきたか、細かい一つ一つの国民の学びたいという心には応えてきたんだけど、じゃあ、それによっていかに市民の情操が涵養されてきたのか、浸透してきたのかということを見ると、もう少しゆっくりとした目で、視点で、「問う」ということを常に考える。「学び」ということではなくて、もう次のステップ、いかに人々が「問う」という力、春台が「学問」で提唱した、「問う」力をと、公民館としては、社会教育100年を考えていかなければというふうに思います。社会教育というのが廃れ、生涯学習というのが出てくる、100年の節目に考えたいと、毎回スローガンのことしか言いませんが、そういうふうに思っております。

(委員)

皆さんの意見からいろいろと考えさせられて、社会教育100年という今村さんの言葉を聞いて、地域の構成員といいますか、どんな方がここに住んでいるかということを考えてみると、ずっと飯田下伊那で生まれ育った方もいれば、別の地域から来ていらっしゃる方もいて、もちろんその中には外国人の方が外国人住民として多く暮らしておられることを考えますと、そういった方々が本当に「学び問う」じゃないですけども、どんなことを求めてここに暮らしていらっしゃるかということ、与えてばかりではなくて、情報量がどうしても多すぎるような印象で、その方たちが何を望んでいるかですとか、何を取り込められるかということを見直す時期になっているという印象を受けます。私自身も一方的なところがあるので、個人的には反省しているところなんです。そう考えると飯田市の12年間の計画なんですけれども、これがどのくらい実際の家庭の皆さんですとか、子どもたちの希望みたいなものを取り入れてあるのか、数値目標というのも大切だと思います。具体的な数があるところを目指していくことは大事だと思うんですけども、あらゆる人たちの思いといったものがどのくらい組み入れられているかということ、ぜひ検証していただきたいと思います。

今回のことと関連しているわけではないのですが、ある家庭を訪問した時に、子どもたちがものすごい数のプリントをもらっていて、学校の先生たちが最後の数時間で一生懸命つくったプリントだとは思いますが、特別支援学級にいる子なので、ちょっと自分で対応できない、なおかつ保護者が外国から移住されてる方なのでお手伝いもちょっと難しいというところで、わからないことを検証することは大切だと思いますし、こんな時に子どもたちにどんな勉強したいって聴くような余裕はなかったと思うんですが、情報発信を受け取る側のことを考えた発信が必要ということを感じます。学校に関わっていると、すごくおたよりの多いので、学級だより、学年だより、学校だより、もう少し発信を制限した方がいいんじゃないか、本当に大切なことを、今はメールでも来ますので、具体的な提案ですが、一緒に考えていけたらと思います。以上です。

(委員)

地域人教育のことについて提案があるのでありますが、例えば、家庭教育学級というようなものは、中央公民館が中心となり、それが各地区の公民館にずっとそれぞれが広がっていったと思うんですよね。

これからは子どもたちが地域に目を向けてその中に入っていくということがすごく大事だと思うんです。今私が住んでいるところでは、若者会議というのを、まず今年やっていこうというのがあるんですけども、中央公民館でそういうパターンのものを少し示していただくと、いろんな地区で、じゃうちもやってみようということになっていくんじゃないかなって。私たちは手さぐり状態でやっていますけど、そういうようなことを考えていただくと、この飯田の地をこういうようにして学んでやっていく、この前キャリア教育の発表を見ましたけれども、ああいうこともいろんなところに広がっていくといいなと思っております。以上です。

(委員)

私、以前、県の埋蔵文化の関係で発掘作業をさせてもらって、とっても楽しい経験したんです。仕事としてやったんですけど、その中で恒川の遺跡も含め、発掘体験ということで、小学校を中心に企画されているんですけど、これを小学生だけではなく、もっと大きく市民全体に向けて1～2日、2～3日、日程をとって発掘体験やってみていただくとすごく楽しいんじゃないかなっていう。実際やっているとすればどの程度成果があるかわからないですけども、これからやるんだったら杵を広げて呼びかけてみれば、これこそ古代の役所跡を探ってみようみたいな、宝探しみたいな面白さ、結局何も出なくても宝探しをやったような楽しさを味わえると思うんです。その成果としてこんなものが見えてきたってということが自分の中に入ってくれば、飯田下伊那の歴史もかなり入り込むんじゃないかっていう気がするんです。そういう部分での企画をしてもらえると嬉しい、私も参加したいということも含めて。建設のために急いで何月何日までに発掘しなくてはというのがなければ、どっかの古墳でもやってみようみたいなものが生まれると、楽しい企画になるのではないかと思います。

それともう一つ、前にも言いましたけれども歴史研究所もお手伝いさせていただいていたこともあるんですけども、その先生たちっていうのは5年契約で、5年たつとよそへ行ってしまうんです。とても能力のある先生たちが地域の、飯田のことをしっかり研究して、そこで私たち市民に教えてくれるんですけども、それを美博の学芸員のように、全員ではなくても、1人2人でも、長く雇えるような格好にしてもらえると、地域の歴史がもう一回り入るのではないかなと思うんです。5年間ということは、先生たち来た時から次の仕事を考えながら研究しているような気がするんです。そうじゃなくて、こう落ち着いてやってもらえたらうれしいなということで前からお願いしているんですけど、なかなかそうならないんで、できればその辺も考えていただくと嬉しいなあと思います。

(座長)

植松委員さんの発言に重ねてしゃべらせていただきますけれども、例えば埴輪をみんなで焼いて、古墳の周りへ置く、もちろんその古墳自身の文化財指定等の条件から、いろいろ難しい問題もありますけれども。あるいは、ここの古墳の葺石は松川から拾い上げてきたから、みんなで担ぎ上げて古墳に貼ろうとか、文化財に手を加えることには問題はあるんですけども、群馬など古墳保存の先進地域では、そういった形で市民との協働の営みをやっているわけでございます。一つの参考になるのではないかなと思います。

なお、歴研の市民研究員とか、歴史研究所で飯田下伊那出身の小・中・高の先生で内地留学という形で受け入れて、美博もあるし図書館もあるし公民館もあるので、何とか地元の出身の地元の研究者が育てほしいということが、歴研と美術博物館と図書館があれば、公民館もあるし文化会館もあるので、そういうことが可能ではないかなと思うんです。

(委員)

先ほどのご説明の中で、「わが家の結いタイム推進事業」の中で、コミュニティスクールとの取組で、今、家庭での問題がたくさんあるわけなので、なかなか結いタイムはポスターコンクールだとか、いろいろされながら推進されていることを存じ上げておりますが、家庭の問題が多すぎてそれに対して具体的に地域でも学校でも手が差し伸べられないという部分が多いと思うんです。

家庭の教育力の向上というところで、学校と地域の協働で子どもたちを育てようというコミュニティスクールのグランドデザイン等を読ませていただいて、意見を出させていただきます。結いタイムも第3日曜日は家庭の時間を大切にしようということですとずっと事業の中に位置づけられておるわけですけど、もうちょっと具体的に案を出し合うといいと思います。いろいろな意見を吸い上げて、この説明だけだと具現化できにくいので。コミュニティスクールに参加したことがありますけれど、案外突っ込ん

だ意見が出ないんですよね。それなのでその辺をもっと密にすることで、家庭の問題が少しでも解決に向かうと良いと思います。特に支援が必要な子どもさんのご家庭への支援について、コミュニティスクールの学校運営協議会の場で話題にするなど、家庭の問題にもっと突っ込んで、みんなでいい具体例、いい実践例を出し合っていたいただきながら案を工夫されるといいと思います。

もう一つはとてもいいことです。今、大人から子どもに、地域から子どもにということが多い面があります。私がすごいなと思ったことは、3年4組の子どもたちがかるたを作っています。名前は「伊賀良小かるた」というんです。自分たちで、5・7・5もわかんないんだけど、3年4組が作りました。そのことにおいて、5・7・5なんてわからないんだけど、学校生活を何でかるたにしようと思ったのかというと、新しく入ってくる小学生が、1年生が学校生活で少しでも心配とか不安が少なくなるようにと子どもたちが自発的にかるたを作ったそうです。そこに私呼ばれたのはですね、「伊賀良かるた」というものがありまして、皆さん方がどういう気持ちで作ったのか、子どもたちが聞きたいということです。子どもを主人公にというのはこういうことだと思うんですね。子どもたちが自分たちより下級生に対してそういう思いやりを持って、かるたを作って、かるたをやったそうですけど。

子どもたちの自発性、主体性をほめてあげたい。何で大人たちが作ったかって、よく気が付くと思いませんか。質問を山ほどいただきました。最後に平田さんはこの地域についてどう思っていますか、という質問がきました。私はいろいろ地域のことを研究して学んでおるので、大好きだと言って言いましたら、大好きですかって、僕たちも大好きで、学校に上がってくる子どもたちにそういう気持ちを伝えたい。それをかるたにしたっていうのですね。その中で逆にこっちの方が、子どもたちの清らかな地域に対する思い、下級生に対する思いをいただいたような気がして、何かの機会にお伝えしたいと思って、この子どもたちの自発性を多くの人に伝えたいなと思ったところです。コミュニティスクールと結いタイムの話と、密にみんなでいい例を出し合って、それぞれ私たちが取り組ませていただいている社会教育の事業も学校教育があつてこそ、学校生活があつてこそ、いろいろ企画しながら工夫したり、理解しあつたりして、子どもや自分たち大人の成長にうまく栄養剤にしていきたいなと思います。

(委員)

まずは御礼申し上げます。第1回の時に美術博物館の事業はすばらしいけれども、なかなか行けないよという話をさせていただきました。早速、具体化していただいて先ほどもお話がございましたけれども、小学校6年間のうち1回は美博を訪れて学んでいただくという事業を立ち上げていただいて大変うれしく思います。飯田の中で学ぶということ、小規模ですので、本校だけではなくて、千代小学校、千栄小学校、上久堅小学校の3校で合同で学びに行こうという計画を立てさせていただいています。

地域との連携について、本校は毎週水曜日に職員会議があり、児童が早く帰ります。そうすると子どもたちどうするかというと、図書館へ行くんですね。分館なんですけど、ちょうど水曜日に開いていて、6~7割くらいが図書館へ行き本を借りたり、遊びをしたり、あるいは宿題もしたりしているという状況です。そういうことを図書館からお聞きし、これはいいことだねと。先ほど三浦委員もおっしゃいましたけど、その機会を活用できないかということで、学習の補修機会になればいいのかなと思いました。誰かそこで見てくれる人がいないかなと、なかなか図書館の方は難しいので、地域の方にボランティアをお願いするとか、考えていかなければと思いますけれども、せっかくそういうことで図書館を利用させていただいておりますので、その中で子どもたちに何かできればということで、地域の方とお話しているところです。

もう一点ですけれども、来年度から小学校は新しい指導要領が始まります。例えば、外国語が入ってくるということで、1時間プラスしなければいけない。学校行事の見直しを図っていかなくてはならない。今まで学校行事としてやってきたものを、公民館行事として、子どもたちだけでやっていたものを、地域の方と一緒にできないかということで、学校運営協議会のメンバーを中心に話を進めてきているところがございます。まだ具体的にはなっていないけど、いくつかの行事がどうかなという話をしているところがございますけれども、その中で、資料289ページ「飯田コミュニティスクール推進事業」ができたということで、これをうまく使わせていただければありがたいなあと、ぜひ何か公民館と協働して何かできればと思っているところです。

(座長)

上郷小学校のコミュニティスクールでも、公民館を使う形での学習教室、自習指導がアップされてお

りました。

(委員)

この前、中学校で「結い未来プロジェクト」を行いました。その時に子どもたちが、「ぼお」を呼ぼうという話になりました。そう、じゃ呼ぶか。ぼおは、子どもたちが飯田市のゆるキャラだと思っているんですよね。人形劇フェスタのゆるキャラだと思っけてないです。ああ、そうなんだな、僕もその時に頭ではわかっていただけけれども、電話を飯田市役所へかけちゃったし、ここじゃありませんと言われても、またそこからしがらみが入ってきて、設定するのにすごくかかりました。でも、あ、そうなんだなって思っけて。われわれってどっかひとつこれだよってものがあるということがすごく大事なんだなと。飯田市って言ったら子どもたちは「ぼお」って言っけてたんですよ。そう考えたと、2028年に向かっけて、どこを原点にしているかなって言っけてたときに、それが飯田市の誇りであると思っけています。そこに住む人間がどういっけてる誇りを持っけているか、それがここに書いっけてあるのかなと。このキャッチフレーズ、いいと思っけています。「合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台」。ここへ常に立ち返る、その中で子どもや大人が生きてそこに学んでいっけてくことが社会教育です。そこに私たは居たいと思っけています。まさにそれは「自治」であるし、「主体」、であるし、「協働」です。ぜひ施策ありきとか、施設ありきにならないで、うんと感じているのは、「やらされ感」といっけてるものが主体性を奪うんだなと。そこで常に、今も立ち返っけてくださっていると思っけていますので、ぜひ子どもの声も、大人の声も、みんなの声を聞き入れるよう、やっけていただけるとありがたいと思っけています。

二つ目、「いいだ未来デザイン」て実はよく知られてないんだなって感じています。私も子どもから聞きました。なぜか、これを授業で使っけてたからです。社会科の授業で使いました。よくよく読んだことがなくて、読ませてもらいました。やはり、これを、みんなが同じ方向に向くためにも、多くの人に理解もらうことが併せて大事だと感じます。子どもたちにも、大人にも、いっけてしょに歩いっけていくことが、わくわくしたり、楽しかったり、希望を持っけてたり、そういう飯田市、期待しています。

(座長)

もう少しご発言したい方、また具体的な、特に社会教育施設等について提案、発言をしたい方もあるかとは思っけていますが、(2)補助金のことについて、事務局お願いします。

(2) 社会教育関係団体に対する補助金の交付について (担当より説明)

(座長)

ご覧いただけたでしょうか。

委員会議としては了承ということでもよろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは事務局へお返しします。

(3)のことにつきましては、今の意見交換の中でそれぞれにご発言を頂戴しておりますので、(4)その他なければ事務局へお返ししたいと思います。

(なし)

6 各課・館・所からの報告事項等について (配布物)

- ・録音図書のご案内 (中央図書館)
- ・オーケストラと友に音楽祭 2020、小学生のための音楽ひろば、名曲コンサート (文化会館)
- ・飯田市美術博物館・上郷考古博物館 2020. 4-2021. 3 (美術博物館)

7 来年度の日程 (予定) (事務局から事務連絡)

8 その他 なし。

9 閉会

(北澤生涯学習・スポーツ課)

以上をもちまして、令和元年度社会教育委員会第2回定例会を閉会いたします。

終了後、社会教育研究会（社会教育委員による自主研究）を実施。